



シリーズ

No.14

元気で賞

このコーナーでは、市内在住で80歳以上の方に『元気の秘訣☆』を伝授していただきます!



中畑東区在住
勝又たつのさん(85歳)

★好きな食べ物:

野菜はトマトで果物はりんごです。

★趣味:「カラオケ」

氷川きよさんのファンです。

スバリ!

元気の秘訣は...

「何でも食べて、よく動くこと」です!

特集 要約筆記とは...

■聴覚障がい者に、話の内容をその場で文字にして伝える筆記通訳のことです。「話すスピード」は「書く(入力)スピード」より数倍も速くて全部は文字化できないため、話の内容を要約して筆記するので『要約筆記』といいます。

要約筆記 は、話を正確に聞き取り、要点をつかんで、短い文にまとめ、素早く書いて伝えます。しかし、話はどう進んでいきますから、書きながら頭では次の話をまとめ、まとめながら耳はその次の話を聞いています。これを繰り返し続けていきます。この大変な作業を支えているのは、「聞こえない人」に、「言っても多く伝えたい」という要約筆記者の熱い思いなのです。

■日常生活と音は密接な関わりを持ち、重要な役割を果たしています。目で見なくても、音を聞き、確かめて生活しています。耳の不自由な人は、さまざまな「音」による情報を得にくいため、必要な情報をつかむのに大変な思いをしています。

また、外見だけではわかりにくい障がいなので、無視していると思われたり、誤解を受けたりすることもあります。会話に参加できず、不安や孤独を感じることも多く、対人関係や社会参加に消極的になるなどといった心理的な問題を引き起こす場合もあります。

聴覚障がい者といっても、「生まれつき聞こえない人」「病気で聞こえなくなった人」「加齢と共に聞こえにくくなった人」等、様々です。そのため、聞こえなくなった時期や環境、程度によって、「コミュニケーションの方法は手話、口話、筆談、ファクスやメールなど、障がいや目的にあわせて自分に合った方法となります。」



▲筆談は重要なコミュニケーション手段です

■社会福祉大会など公的な行事や個人の病院受診の時など要約筆記通訳は幅広く必要とされています。御殿場市では、要約筆記サークル「さくらんぼ」に所属する要約筆記者のみなさんが活発な活動を行っています。

■聴覚障がい者とのコミュニケーション方法は、手話だけでなく、その人にあつた方法を選択できるはずで、「コミュニケーションの第一歩は、何より「伝えたい」「わかってもらう」と思う気持ちが大切です。その上で、要約筆記などを利用した情報提供がスムーズに行われるようになれば、聴覚障がい者も気軽に社会参加できるようになります。

人は一人で生きていくのではなく、社会の中で人と関わりあいながら生活しています。誰もが安心して暮らしていくためには、「障がい者も同じ社会の一員として生きている」ということを理解することが大切です。障がいの有無に関わらず、誰とも心が通い合える優しい社会を目指したいものです。